



忘年会に、行って来ました！！

和食・とんかつ・洋食、素敵なお店の数々から

一人一人が行きたいお店を選びました。



ビーフシチュー
美味しかったね～

上手に
切れてるよ！



目次

- ・「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 48」
～食堂の30脚の椅子を、一人で全部テーブルに上げています～ <2～4 ページ>
- ・新人職員紹介 <5 ページ>
- ・「お～い、ごとくーん！！」 <6 ページ>
- ・ものとりつくまるちとらつく <7 ページ>
- ・後援会のご案内・ボランティアの募集・編集後記 (編集部) <8 ページ>

食堂の30脚の椅子を、一人で全部テーブルに上げています！



～Aさんの「食堂椅子上げ」活動について～

わたげは2階に食堂があります。毎日職員が床面を掃除機掛け、モップ掛けして清潔な環境を保っています。その為にはまず、食堂の椅子を全てテーブル上に上げる必要があります。食堂には30脚近い椅子があり、椅子上げだけでも結構大変です。現在、その食堂の椅子全てテーブル上に上げる役割活動は、利用者のAさんがして下さっています。

今回は、Aさんの食堂椅子上げ活動の取り組み開始から現在までの経緯をご紹介します。

◆Aさんについて

いわゆるアラフォーの男性。自閉スペクトラム症です。わたげでは主にケーブルの解体作業を行っており、スケジュールは写真カードを使ってお伝えしています。

◆始まりと課題：「椅子上げはOK！しかし裏玄関が気になると…」

一番最初は職員の顔写真カードと椅子の写真を併せて見せ、「私と一緒に食堂の椅子上げをしてほしい」とお伝えしました。食堂に移動後、「食堂の椅子をテーブルの上に上げる」ことを職員が行ってみせました。職員がご本人の隣で同じ事をしてみせる事で、力加減も含め問題なく行えました。この結果は日常的な関わりの中で、ある程度事前に想定していました。しかし、事前に想定していた心配な部分も的中してしまいました。食堂への往復の際、裏玄関の前を通過しますが、時折裏玄関から外を見たくなくなってしまいます。外を見て、気になる物があると、出て行ってしまいうこともありました。そうすると一人で任せきることが難しくなり、大きな課題でした。

◆取り組みを続けた中での新たな課題：「力加減は上手！しかし声掛けがないと…」

外に出てしまうという課題はあったものの、すぐ解決策が思いつきません。どうしよう…と悩みましたが、この課題はひとまず横に置いて…。まずは「椅子を適切な力加減で上げる事が出来る」ことを活かし、職員と一緒に「食堂内全ての椅子を上げる」取り組みを行うことにしました。職員が「椅子を全部上げたら終わりです」と伝え、一つ椅子を上げるごとに良く出来た事を伝える対応を続けました。しかし、職員が「もう理解出来ただろう」と考え、声掛けをしなくなると、椅子上げが途中で止まってしまいました。

◆課題の検討：「なぜ止まってしまうのか？」

「声掛けをしすぎた？」「飽きた？疲れた？」などネガティブな発想も浮かびましたが、Aさんは発語がないので、理由を話してくれません。改めてAさんの様子を観察しました。「止まっている時、職員の方を見ている」「イライラする様子やその場を離れる様子はない」「職員が指差すと行う」などの様子が見て取れました。

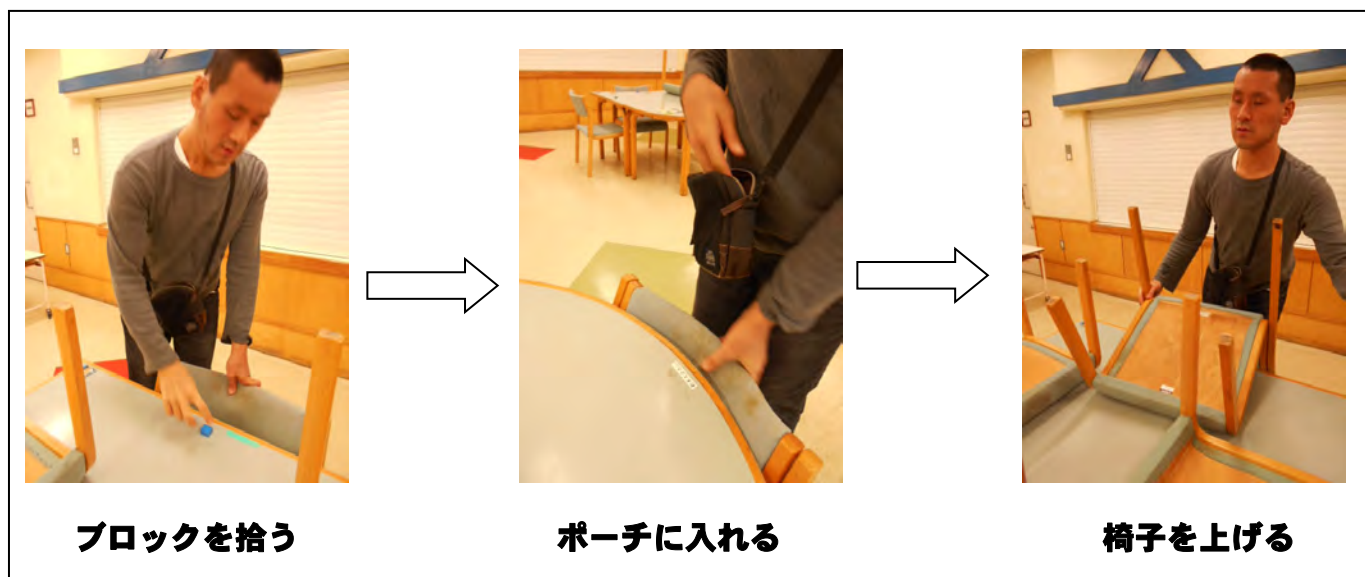
職員が改めて自身の行動を見直した時、職員は声かけだけでなく、次に上げるべき椅子を指差していました。この指差しがなくなると、動きが止まってしまいうことに気付きました。声かけ以上に指差しがご本人に「次にどの椅子を上げるか」を伝えていたのです。そして、「次にどの椅子を上げるか」を指差し以外の方法で伝えられれば、自立して行えるのではないかという発想に至りました。

◆上げるべき椅子を明確にする取り組み：「効率にはこだわらず、わかりやすさを優先。」

上げる椅子を明確にする為、以下の方法に取り組みました。

活動前、職員が各椅子の前のテーブル上に2×4cmくらいの小さな色ブロックを一つずつ置いておきます。ご本人が食堂に移動後、ポーチを斜めに掛けて活動を開始します。テーブル上に置いたブロックを一つ取ってポーチに入れ、そのブロックの前にある椅子を上げる手順にしました。敢えて椅子を上げる前に「ブロックを拾ってポーチに入れる」手順を加えたのは、「テーブルの上」という見えやすい場所にブロックを置き、まだ上げていない椅子がどれかを明確にする為です。また、「ブロックをポーチに入れる→椅子を上げる」という一連の流れを作り、「ブロックがなくなるまで行う」方法は、ご本人にとっては「活動の終わり」が分かりやすいのではないかと考えたのです。

以下（写真）は椅子上げの活動をしている様子です。肩から提げている黒いポーチにテーブル上に置いたブロックを入れてから、椅子を上げていきます。



まず職員が上記の手順を実際に行ってみせ、Aさんに行ってもらおうと、Aさんは椅子を上げずにブロックを次々とポーチに入れました。ここで、「真似しようとしてくれていて、理解しようとしてくれていて」「この活動には興味がある」「ブロックをポーチに入れる意識はバッチリ」と様々なプラスの情報が得られました。

その後、「ブロックを入れたら椅子を上げます」と指差しや、やってみせる事で手順を伝える支援を続けました。数回行うとブロックを入れてから椅子を上げるという流れが出来てきました。活動中、自分で周囲を見渡し、まだ拾っていないブロックがないか、探す様子が見られ始めました。止まって職員の指示を待つことがなくなったのです。色ブロックが置いてあることで、上げていない椅子を見つけやすいのだと思います。

Aさんの行動の変化を見て、「分かれば出来る。分からなければやる気も失う」、自閉スペクトラム症を持つ方に特に見られる行動のように感じました。分かりやすくする事が重要と、改めて感じました。

◆もう一つの課題「外に出る」の解決：「活動の流れの明確化によって良い変化あり！」

ブロックをポーチに入れる方法が効果的だったことは「全部の椅子を上げる」ことだけではありません。活動の終わりを「椅子を全部上げる」ではなく、「ポーチを所定の場所に片付ける」ことにしたのです。ポーチの片付け場所を自分の作業エリアに設定することで活動後、まっすぐ作業エリアに戻る意識が生まれたようです。活動が定着していく中で、食堂に向かう際も戻る際も外を気にする様子がなくなり、自立的に活動が完結できるようになりました。

経験を積み重ねることで、出来るようになりました！！



椅子をそっとテーブルに置く、丁度良い力加減を自分で意識するようになりました。



四角い椅子だけではなく、形状の違う丸椅子も上げることを理解したことで、全ての椅子を上げられるようになりました。

◆現在の様子：「Aさんいないのか、困ったな」

現在、食堂の椅子上げはAさんの役割として定着しています。Aさんは何も言いませんが活動をお願いした時の反応の速さ、表情の明るさ、移動時の勢いの良さ、約30脚を止まらずに上げて10分ほどで終わらせる様子等から、やりがいを感じている様に見受けられます。



Aさんは受注品の納受注にも携わっていて、食堂掃除をする時間帯に外出して不在になることがあります。そうすると「Aさん納品でないのか、困ったな」と思わず口走る職員も出始めました。利用者一人一人が得意とする力を発揮し、「頼りになる存在」になることは、ご本人のやり甲斐につながります。スモールステップでも良い、出来ない部分は職員が手伝っても良いと思います。出来る部分を評価し、それをご本人に伝えていくことが重要と考えます。その中で良いアイデアも生まれてきますし、ご本人の新たな力を目の当たりにすることもあるかもしれません。

「他人に必要とされること」は人にとって、とっても必要なことです。あらゆる人にその機会を提供していくべきと考え、今後も決めつけたり、諦めたりせず、様々な活動に積極的にトライしていければと思います。そのためにはご本人の好き嫌い、集中力、器用さなど、よく知る事が重要です。それらを無視すれば単なる職員の都合の押しつけになってしまいます。職員がどこまで、どの部分をご本人に期待するのか、どのようにお手伝いすれば、環境を整えれば、自立的に意欲的に行えるのか、それは私もいまだに勉強中です。

Aさん、毎日の椅子上げ、ありがとうございます！今後も宜しくお願いします！

鈴木研二

新人職員紹介

平成30年11月1日に入職いたしました、杉浦健太と申します。横須賀たんぽぽの郷わたげでお世話になる前までは、大学卒業から4年半、鎌倉市にあります、知的障害を伴う方々の通う、通所施設で勤めておりました。私は大学では経済学を学んでおりましたが、大学を卒業してすぐに福祉の施設で勤めることを決意しました。

私には10歳上に知的障害を伴う姉がおり、私はその姉を大学時代まで理解できずにいました。中学時代、私が友人からCDを借りてきて、ふと自分の机に置いたまま外出して帰ってくると、そのCDがない！血眼になって探し回ると、ゴミ箱に捨ててあったり…私の部屋のテレビが突然つかなくなり、「故障しちゃったのかな？」と思い、テレビの後ろを覗いてみると、コードがハサミでちょきんと切られていたり…と思いがけない出来事ばかりの青春時代を過ごしました。そんな青春時代から、私は姉とは一切関わらなくなり、ほとんど口も聞かない状態で大学生になりました。転機があったのは私が大学2年生の頃。私が慣れないお酒を飲み、酔っぱらって夜遅くに家に帰ってきて翌日は二日酔い…という状態の時に「大丈夫？大丈夫？健太くん死んじゃうの？」と誰よりも心配していたのは姉でした。私がただ気持ち悪くて寝込んでいるのを大変な病気になったと勘違いしていたようでした。そのころ、私は姉とは一切口も聞いていなかったのに、そのように自分のことを気にかけてくれる姉の姿を見たときに「いままで自分は大きな勘違いをしていたのかもしれない。姉は私のことを傷つける気はないのだけれども、うまく自分の思いを表現できなかつただけかもしれない。」と感じ、「今まで避け続けてきてしまったけれど、これからは福祉の世界を勉強して、自分のように勘違いをして兄弟や家族を誇れない人のために役に立ちたい。」と考えるようになり、福祉の世界で働くことを決め、前職の施設で新卒から4年半勤めることとなりました。

横須賀たんぽぽの郷で勤めるきっかけとなったのは、前職に勤めていた際、支援の勉強がしたいと思い、わたげ内の施設見学をさせていただいた時のことです。その時に、ご利用者の生き生きとした姿、職員さんの専門性の高さ、そして施設の居心地の良さに憧れを抱き、「自分もこの施設の一員になりたい！」と感じたことがきっかけです。現在では毎日、ご利用者、ご家族の方々、先輩の職員の方々にお力を借りて、ひとつひとつ学ばせていただいている真っ最中で、充実した日々を過ごしております。いつかは「頼りになるな！」とお願いいただける職員になれるよう、一生懸命努力してまいります。

これからどうぞよろしくお願い致します。



「お~い、ごとくーん！！」

最近、AIという言葉をよく耳にする。Artificial Intelligence（人工知能）についてのニュースがあちらこちらで取り上げられている。ここ15年くらいの間には、日本で働いている人の49%の仕事が人工知能（AI）やロボットで代替え可能になるという研究結果もあるようである。そもそも、AIという言葉はよく聞くものの、それ自体を理解することは、私のような人間にはとても難しい。人間の脳の働きを、人工的にコンピューターで再現するための概念と技術というようなものなのだろうと、勝手に理解している。

この人工知能を使って、例えば紙に書いた丸い形を、“これは丸である”と認識するには、沢山のデータをコンピューターに読み込ませ、精度を高める必要があるとのことである。人間の脳神経回路と同じような働きを、コンピューターの中で再現し、入力側から入ってきたデータをいくつもの階層に分けて分析していき、丸と判断するのに重要なデータは、太いラインで繋ぐ等、コンピューターが学習していきながら、精度を上げていくらしい。紙に書いた“まる”という形といっても、きれいな丸を描く人もいれば、楕円のようになる人もいたり、時には、一筆書きで丸を描いたときに、勢い余って、接点をオーバーして、尻尾のある丸を描く人もいるであろう。それら全てを丸であると人工知能が認識するためには、人が予め丸であると認識した大量のデータを、人工知能に読み込ませ、丸と認識できなかった場合は、出力側（丸ではないと判断した最後の回路）から逆にたどって行き、丸と認識するためには、どのデータが重要で、どの回路と、どの回路を繋げば良かったのかということ、学習していきながら、精度を高めるそうである。私なりの精一杯の理解の中で書いてみたが、丸を人工知能が精度高く判断するという一つとっても、大変な手間がかかることなのである。トマトを人工知能に認識させる場面をテレビで見たが、机の上のトマトや、実際に栽培中のトマト、葉に隠れたトマト、熟れてないトマト等、いろんなトマトの写真を切り取り、大量のデータとして読み込ませ、トマトだと判断できるようにするらしい。

私が、最近人工知能に興味を持ったのは、偶然見たテレビ番組で、前述のようなことを知り、何気なく人が行っていることでも、その構造に着目すると、凄いことなんだなーと感心したことからである。人工知能に再現させようとするすることで、逆に、人の脳の働き方が見えてくるというか……。面白いなと思うのである。

私たちは、人と関わるときに、相手の表情や、動き、言葉の抑揚や姿勢、その時置かれている状況や、これまでの経過など、様々な情報を短時間で繋ぎ合わせて、どう接するか、何を伝えるか、決めているように思う。時には、直感的に感じることもある。自分の体調や気分でも、関わり方は左右されるかもしれない。人が何かを決めたり、判断するということは、単なる経験やデータの蓄積からだけでは、無いような気もする。人の意思とは、どうやって形成されていくのか、とても興味が惹かれるところである。AIのことを少し知ろうとしただけでも、人は複雑な構造で成り立っていることが分かる。

意思決定支援をどのように行うべきか、これは、とても難しいことだと、常に感じている。少なくとも、これで良いのだというものは何も無く、支援者の心は常に揺れながら、これで良かったのか、違う方法は無かったのか、と考え続けることが必要なのだと思う。

施設長 後藤博行

このコーナーでは「横須賀たんぽぽの郷」ニュースをトピックスでお伝えしています。



2018年12月25日 X'mas も、ミニストップ西浦賀店様から
昨年度に続き、クリスマスチキンを頂きました！！

今回も、美味しくてジューシーなチキンを
届けてくれて、ありがとうございます。
みんなで、お昼に頂きます！！

(*^_^*)



チキン
大好きです



たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474

郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



ボランティアさん 募集中

わたげ・ふぁず・こっとなほうすで、自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？

作業の検品、余暇活動の支援、清掃等

お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:いまうじ)

E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふぁず 電話:046-884-0804 (担当:さかい)

E-mail: faz2018@wing.ocn.ne.jp

こっとなほうす 電話:046-852-8355 (担当:ひがしかわ)

E-mail: tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



編集後記

1月中旬に、鎌倉に初詣に行って来ました。少し遅い初詣だったので、私としては、ゆっくりと初詣を楽しめるのかと思っていたら・・・人人人、人だらけ(—_—)!! さすが、観光名所の鎌倉です。

久しぶりの鎌倉を楽しみ、色々なお店を覗きながら歩いていると、あるご家族に目がきました。お父さん、お母さん、小学生ぐらいの男の子と小さな女の子の4人家族。古風な昔の着物を家族全員は着て、子供達の首にはがま口の財布が掛けられており、買い物を楽しんでいる様子でした。ご家族揃って着物を着て鎌倉かぁ～。

私は、そんな家族を見ながら、我が家も娘が小学4年生の時に、私の母が「正月は着物を着るわよ!!」と、突然言い出した、あの正月を思い出しました。とても記念にはなりましたが、3人着付けた母は念願叶った喜びは一瞬に終わり、3人分の着付けは大変だったと・・・あれから10年、正月に着物を着ることはない我が家です(笑)

また、周囲を見ると若い子たちがグループで着物を着て歩く姿もあり、なんだか日本らしい風景が見られて素敵な初詣と年の始まりでした。愛読者の皆様、今年も素敵な年になりますように❀

編集部 高橋

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp